

「思いや考えを豊かに表現し、相互に理解を深め合う児童の育成」  
～自ら考え、自ら学ぶための国語力と豊かに生きるための実践力を育てる指導～

# 「子どもの『個別最適な学び』と 『協働的な学び』に役立つ 学校図書館運営の実践」

令和7年10月8日（水）

大阪市立南市岡小学校

校長 木村 幹彦

大阪市立南市岡小学校校長 木村幹彦です。本校は大阪市教育局教育委員会のがんばる先生支援事業の選定を受けております。また、文部科学省「生命の安全教育普及展開事業」大阪市普及展開拠点校となっております。

本日は、「子どもの『個別最適な学び』と『協働的な学び』に役立つ学校図書館運営の実践」というテーマでの公開授業研修会ということで、伊勢市教育局教育委員会 教育メディア課 子ども読書活性化担当 主幹 宮澤優子様、大阪市立中央図書館 館長 石田 智子様をはじめ、図書館主任の教員の皆様、学校図書館司書の皆様、広く図書館から教育全般に関わっている皆さんにお越しいただいています。ご参加いただきありがとうございます。では、私からは、このような実践に至った経緯について説明させていただきます。



これは、4月16日にNHKクローズ現代で「校内トラブル激減感情リテラシーを育む授業」として紹介された1年生の国語の授業です。



NHKでは、この授業が闇バイト問題に向き合う方法の一つとして紹介されました。

## 国語・図書館教育

視点① 「論理的思考力を鍛えること」

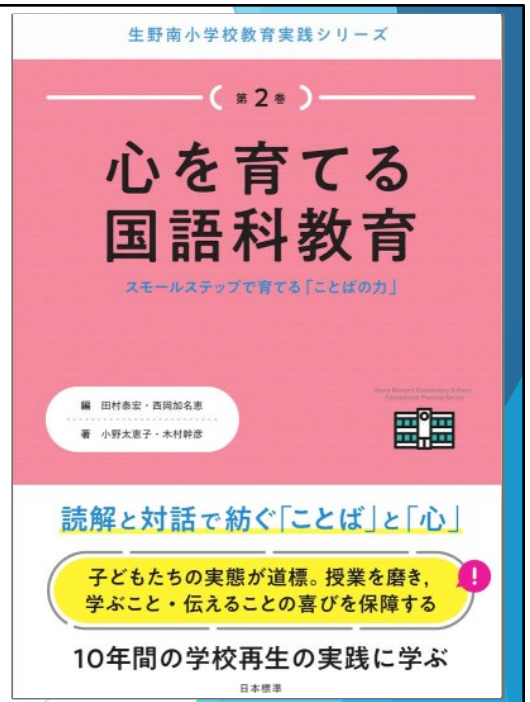
視点② 「心内語を書くこと」

視点③ 「言語活動の工夫」

これらの学びを進めることで、子どもたちは、

- 基盤となる国語の知識を生かし
- 論理的に考えることや、相手の気持ちを想像すること、感じたことを伝え合う経験をする。
- それが、これから生きていくための知識や経験として蓄積され、『生きる』力として生かされていく。

このような国語・図書館教育を、  
「心を育てる国語科教育」としている。



その理由は、本校は、私の前任校生野南小学校で8年間、「国語・図書館教育」をご指導していただいた田村泰宏先生に4年間ご指導を受け、生野南小学校で開発された独自プログラム「『生きる』教育」を取り入れているからです。

(「産経新聞」  
2020年8月26日)

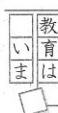
## 大阪・生野南小が実践「生きる教育」

## 思いを言葉に 命・体を大切に



「プライベートゾーン」についての1年生の授業。イラストを多く使って分かりやすく説明する。令和元年11月、大阪市生野区の市立生野南小学校（同校提供）

### 校内暴力消え学力向上



かつて教育の指導に児童が反抗するなど、暴力が多発していた大阪市の小学校で作成された、独自の教育プログラム「生きる教育」が注目を集めている。自分の思いを言葉に「伝える力」を磨いていくことが目的で、このプログラムのもとでは、国語力の向上と、命や体の大切さを伝える性教育。これによって、校内暴力は減少し、児童の学力も徐々に向上させている。

赤ちゃんとふれあう「何があったら、手が出てしまふ児童多かった」平成28年度、大阪市生野南小学校に勤務する教員は、この言葉で悩んでいた。

「何があったら、手が出てしまふ児童多かった」平成28年度、大阪市生野南小学校に勤務する教員は、この言葉で悩んでいた。

- ◎物語を読み解いて他者の気持ちよく取る
- ◎広告を読み比べて書き手が読み手を思う心を理解する
- ◎新聞記事を使って「ディベート」を行い、自分の考えを述べ
- ◎プライベートゾーンを清潔に保つことをイラストで学ぶ(1年)
- ◎赤ちゃんとふれあひ、命のつながりを感じる(2年)
- ◎「子どもの権利条約」を通して自分を守る権利を知る(3年)
- ◎生い立ちを振り返り、将来の生き方を考える(4年)
- ◎架空のデートプランを考え、良い関係を築くために何が必要か学ぶ(5年)
- ◎将来の家族構成などを考え、互いの違いを認め合う(6年)

「生きる教育」のプログラムは、市内の小中学校で実践されている。今年度は、市内の小中学校で実践されている。今年度は、市内の小中学校で実践されている。

「生きる教育」のプログラムは、市内の小中学校で実践されている。今年度は、市内の小中学校で実践されている。

「生きる教育」のプログラムは、市内の小中学校で実践されている。今年度は、市内の小中学校で実践されている。

2020年の新聞記事では、生野南小学校が「『国語力の向上』と『命や体の大切さを伝える性教育』で落ち着いた学習環境にと紹介されています。

『命や体の大切さを伝える性教育』を「『生きる』教育」と呼んでいました。



## 「『生きる』教育」とは何か

- ▶ 「『生きる』教育」：子どもたちが直面する「人生の困難」を解決するために必要な知識を習得し、**友だちと真剣に話し合うことで安全な価値観を育む**ことをめざす教育。子どもたちにとって一番身近であり、心の傷に直結しやすいテーマをも授業の舞台にのせ、社会問題として捉えなおすとともに、授業の力で子どもたち相互にエンパワメントを生み出し、個のレジリエンスへつなげることをめざしている。

(西澤哲・西岡加名恵監修『「『生きる』教育」——自己肯定感を育み、自分と相手を大切にする方法を学ぶ』日本標準、2022年)

「生き方」を教える他のアプローチ

- ・ 道徳：  
徳目主義の問題点 → 「考え、議論する道徳」  
「自主、自律、自由と責任」「希望と勇気、克己と強い意志」「思いやり、感謝」「相互理解、寛容」  
「遵法精神、公德心」「家族愛、家庭生活の充実」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」など、毎年22項目
- ・ 生活綴方  
(作文による自己表現と集団での交流)
- ・ 生活指導(集団づくりを通した自治の指導)

「『生きる』教育」

→子どもたちの「認識」へのアプローチ

- ・ 徹底した教材研究  
(法学、医学、心理学、福祉学…)
- ・ 子どもたちに獲得させたい理解を目標として明確化
- ・ 効果的な指導方法の開発  
(ハズオン、マインドオン)

「『生きる』教育」とは、私が教頭・校長をしていた大阪市立生野南小学(約1割の児童が校区内の児童養護施設から通う)で、2016年度ころから作られた独自の教育プログラムです。一言でいうと、「自分と相手を大切にする力を育てる」教育です。本校でも2022年度からこの「『生きる』教育」を取り入れています。

黄色のマーカー部分「**友だちと真剣に話し合うことで安全な価値観を育む**」ためには、**真剣に話し合うことができる「言葉」**を持たないといけないということで国語・図書館教育と繋がっています。

## 2025年度 南市岡小学校の「『生きる』教育」

虐待予防教育

【小1・6】

【小1】 ふれること、ふれられることについてかんがえよう  
～プライベートパーツ～

【小2】 人との距離感って？  
～パーソナルスペースについて考える～

【小3】 子どもの権利条約を知ろう  
～今の自分と向き合う～

【小4】 10歳のハローワーク  
～ライフストーリーワークの視点から～

【小5】 SNSについて考えよう  
～アサーティブ・コミュニケーションの4原則～

【小6】 デートDV  
～愛？ 支配？ パートナーシップの視点から～

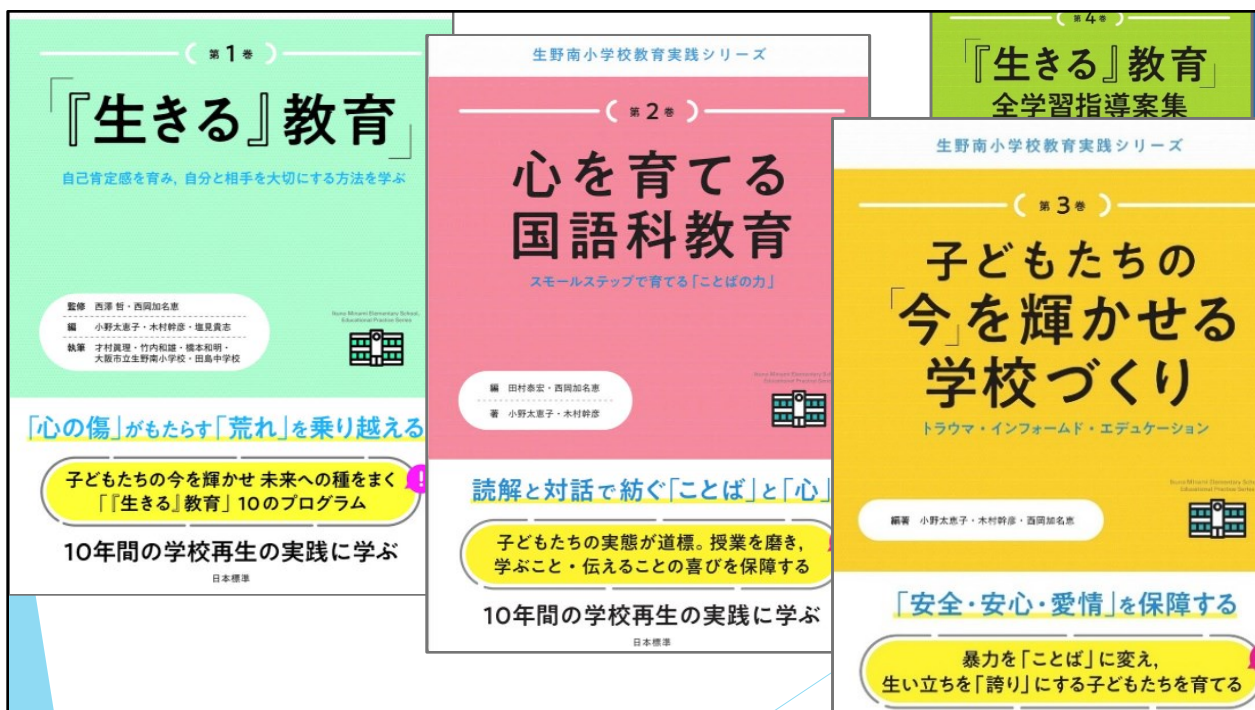
治療的教育

【小2・3・4】

生きる教育は、トラウマケアやライフストーリーワークといった専門家から得た知見を踏まえた、自己肯定感を高める支援としての治療的教育の側面と、被害者にも加害者にもならないために、身体的虐待、ネグレクト、性的虐待、心理的虐待の具体的内容やその影響を子どもたちと共に考える虐待予防教育の側面を持っています。







本校では、「『生きる』教育」「心を育てる国語・図書館教育」そして、「緻密な生活指導と学校づくり」の3本柱が支えあってこそ「思いや考えを豊かに表現し、相互に理解を深め合う児童の育成」ができると考えています。

生野南小学校での経験から



①緻密な生活指導

「いじめ」の無い学校

安全・安心・愛情を感じる

②国語・  
図書館教育

心を育て、言葉で伝える

心の豊かさをもたらす

③『生きる』教育

人の尊厳を学ぶ

自分も人のも心と体を大切に

「ことば学びを大切に」「学校生活を楽しく豊かに」

「思いや考えを豊かに表現し、相互に理解を深め合う児童の育成」

10

つまり、「緻密な生活指導」で安全・安心が確保され、「国語・図書館教育」で自由に考え、発言できるようになり、「『生きる』教育」の理解が深まる。このことが好循環になり後戻りしなくなると考えているのです。今、本校では、児童間のトラブルが激減し、休みっぱなしの児童は0になりました。学びの環境がととのってきています。

本日は、皆さんと学校図書館が「明るく前向きに他者と関わる力」を育て、「個別最適な学び」を保証していることを再認識し、これからの学校図書館について語り合いたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

# 南市岡小学校の

## 学校図書館活用



学校図書館主任  
山下 啓子

私からは、本校の学校図書館についてお話をさせていただきます。

## 主幹学校司書との図書館運営について

- 主幹学校司書の配置が、週4日
- 図書館開放が 8：15～ 放課後まで
- 児童が知りたいことを自分で調べられる環境づくり。
- 貸し出しを1人3冊にして、分類9を1冊入れる。
- 物語文を読むことが、国語の読解学習とつながってる。
- 図書委員会の活動の充実

本校では、主幹学校司書の配置により、図書室を週4日開放することが可能となっています。朝8：15から放課後まで開放しているため、子どもたちは休み時間や放課後に自由に図書室を利用でき、読書への自主的な意欲を育むことに繋がっています。授業で必要な調べ学習の資料を自分で探す機会が増え、主体的に学ぶ姿勢も伸びています。また、本校では、貸し出しを1度に3冊までとし、そのうちの1冊は9類と決めています。物語文を読むことで、登場人物の心情を想像したり、場面の変化を追ったりする力を養うことができます。これは、国語の教科書における読解学習と結びついています。物語の世界を味わう経験は、他者への共感や多様な価値観の理解にもつながり、国語科で育てたい『言葉を通して考える力』が自然と身につく環境となっています。

学校司書の滞在で、図書室の安定した運営により、図書委員会の活動も充実しています。掲示物や図書便りの作成、読書週間のイベントの企画など、学校司書の専門的なアドバイスを受けることができ、委員会活動がより豊かになり、児童は安心して活動することができてます。以上です。

# 本校の実践と 授業の振り返り



研究部長・4－1担任  
中林 真理子



7月末の教材分析委員会・指導案検討会の様子

今回の「くらしの中の和と洋」の授業も指導案検討会を9月3日行いました。



## 授業までの流れ

**R7. 4月**

単元「くらしの中の和と洋」を公開授業とすることを相談・決定

**6月**

中林（授業者）と辻主幹学校司書（以下、辻先生）で内容を相談

団体貸し出しの本についても、言語活動（「和と洋ブック」と「和のみ力」）を伝える。

**7月**

学習指導案作成（第1案→訂正→・・・第8案まで）

この間に、田村先生、木村校長、山下先生に助言いただく。

辻先生を通して、団体貸し出し申し込み

**8月末** 打合せ（公開当日について等）

市立図書館より調べ用の本が届く（100冊以上）

→NEXT

**9月** 指導案検討会及び模擬授業（市立図書館の本を活用）

本校、管理職・教諭全員で指導案を確認  
みなさんに意見をいただきました。

4日（木）

- ・ 百科事典の使い方・並行読書（市立図書館の本）
- ・ 本文要約（6時間程度）

★この辺りで、図書の時間にプチ打合せ（進度）

★24人のテーマを名簿にして渡す。

- ・ 和と洋ブック作成

★調べるときに、そのものの自体を見たことがな

くわかっていない児童がいたため、「ポプラディア」を使っ  
てはどうかと、辻先生から提案→使うとうまくいった。

- ・ 発表

★図書室を発表会場にすることを相談。他の先生方に声かけ。



10月

・1日（水）デモンストレーション

★行うにあたって、展示スペースや、内容などを実物がわかるようにしようと相談。

★プレ授業（2組）にあたって、「み力」部分の内容を早くかける児童がいるかもしれないため、スライド作成まで紹介することを決めた。

- 本かパソコンかと児童が迷った際に、  
どんな情報が必要か確認することとした。
- 本は読み仮名があり、わかりやすいことを  
確認し、児童の指導にあたった。
- 資料がない場合や、目的に応じてたものがない場合はパソコンを  
使用するようにした。



# かけがえのない 学校図書館

ことば学びを大切に



学校生活を楽しく豊かに



学校図書館の利活用

2025/10/8 田村泰宏

ご紹介いただきました田村でございます。よろしくお願いします。  
「学校図書館は、かけがえのない存在」だと、今、また強く感じております。  
これが、今日のご発表の根底にある大事な論点かと受け止めております。

【公開授業と実践報告に対する講評】

大切な役割

## 「学校図書館の利活用と 学校司書による授業支援」



【パネルディスカッションテーマ】

## 「大阪市の子どもたちの学力育成と図書館教育」 — 学校図書館活用から公共図書館との『連携・協働』へ —



講評のテーマに「授業支援」をあげましたのは、学校図書館の第一義的な役割だと考えるからです。学校は授業を行うところだということです。

今日の授業を中心に、また主幹学校司書の辻先生から伺ったことの紹介も交えて、どうすれば少しでも効果的に授業支援を進めることができるのか、この学校の研究から学ばせていただきましたことを、5点にまとめて、以下述べさせていただきます。



## Point 1

研究テーマを  
意識しよう

授業支援を  
心がけよう

【南市岡小学校の研究テーマ】

思いや考えを豊かに表現し、相互に理解を深め合う児童の育成  
～自ら考え、自ら学ぶための国語力と豊かに生きるための実践力を育てる指導～

- (1) 「明るく前向きに他者と関わる力を育てる国語科読解指導の研究」
- (2) 「子どもの『個別最適な学び』と『協働的な学び』に役立つ  
学校図書館運営の実践」
- (3) 心と体を豊かに育む南市岡小学校版「生きる」教育

やはり、これが一番に来ると思います。「研究テーマを意識しよう。」  
例として、画面は、本校の今年度の研究テーマです。このような研究  
テーマを、教職員間で共有し日常的に意識することです。

(1)が国語科、(2)が学校図書館、(3)がこの学校が独自に取り組んでおら  
れる「生きる教育」、それぞれのテーマですね。さらに一番上が、教育活  
動全体を通じてのテーマです。ことは学びが子どもの豊かな生活に、ダ  
イレクトに結び付いて行くという主張が読み取れるテーマ設定をなさっ  
ています。

各学校独自に、子どものどんな成長をめざして、どんな授業を行いたい  
のかを、このように明示しているのが、研究テーマとなります。

だから、一番始めに、これに意識を集中して、自分なりに解釈する。専  
門的で難しいと感じられても、気になさらずに、教育を語るのに「専門」  
も「畑ちがい」もございません。ご自分の立場で解釈する。そして、意見  
交流を大事に、授業づくりに次々臨む。辻先生は、「年度はじめにいた  
だく研究に関する資料をひたすら読み込む。頭と体に馴染ませる。」と  
仰いました。この感覚です。

ご自分の学校の研究テーマをもう一度確かめていただければ、仕事の  
糸口が見つかるかもしれません。

## Point 2

### 研究授業がチャンス

【「研究授業」という文化】



ポイントの2。これはとくに学校司書の皆さんにお伝えしたいことです。

授業支援が第一義、だから研究テーマを意識しようといっても、現状、そう簡単にできないです。

大阪市の学校司書は、通常、一つの学校に週一回の勤務。日常の開館業務だけで手いっぱい。授業支援にまで気は配れない。先生の側も声をかけづらい。

ただ、そもそも何のためにオリエンテーションをしたり選書したりするのか、学校司書のやりがいは…などと、考えると、やはり行きつくところは学力育成、子どもたちの成長に行き当たります。年に一回一時間だけでもかまわないので、一度、ぜひ授業支援、学校図書館での授業にチャレンジしていただければと願っています。

一番の近道は研究授業の機会をとらえることだと、わたしはお勧めします。

年度はじめに計画を立てられますから、研修部長や図書主任、また教務主任、仲の良い先生に声をかけて、見通しをもってこつこつと時間をかけて、協力し合って授業づくりを試みてください。きっと、やりがいがあると思います。子どもの成長が手に取るようになります。辻先生は「やりがい」を、子どもの調べ学習を横でご覧になっていてほしいですね、「子どもたちが“未知との遭遇”をした時の感情爆発」させる「姿」と仰います。こんな子どもの姿が見られるのが学校司書の醍醐味ですね。一年に一回一時間からです。

### Point 3

#### 研究授業のねらいを 共有しよう

〔話し合いを通して、ことばの良さを  
しみじみと感じる授業に！〕

南市岡小学校の  
国語科研究授業  
から浮かび上が  
る大切な気づき

- ① 自分事として学びに向かうこと
  - ・ 話題の背景に関心をもつこと
  - ・ 考えの形成・交流を促すこと
  - ・ 表現の場が保障されること
- ② 学習方略を身につけること
  - ・ 話題に関わる基礎的知識をもつこと
  - ・ 文章読解の知識・技能をもつこと
  - ・ 比較し俯瞰する思考ができること

ポイント3は、そもそも研究授業って、何だということですね。

研究授業にはねらいがございます。子どもの実態や教科に応じて具体的にこんなことに気をつけて単元を組み立てましょう、ということが、方向性として示されます。これを共有したい。ところが、学校司書のお立場では、なかなか情報が得にくいから、授業支援と言ってもどうしてよいかわからず、つい手が出ないということになります。

研究、あるいは授業づくりのねらいの、共有に努めるべしということになります。

画面は、南市岡小学校の国語科授業へのアプローチとして明らかになってきていることです。子どもが「学びを自分事にする」と、学んだことを「学習方略」として確実に身につけさせることの二点です。

辻先生も、支援にあたって、授業のねらいを「共有」できるように努力されます。そのために授業者とのコミュニケーションを非常に大切になさっています。「この授業、どんなねらいをおもちですか？」と尋ねたり、あるいは授業者の側から「最後にこんな表現活動を考えてるんだけど…」といった語りかけがあれば、それをしっかり受け止められます。双方向的に深めていくことが大切です。

例えば、今日の授業も、単元レベルでながめると、このコミュニケーションの成果が良く現れているといえます。

## 各項目にあてはまると考えられる学習活動①

### ① 自分事として学びに向かうこと

授業者と学校司書との協働

#### ○ 話題の背景に関心をもつこと

- ・ 3年社会科『昔の道具』の思い出し
- ・ 大阪くらしの今昔館のウェブサイト視聴
- ・ プレゼンのデモンストレーション

#### ○ 考えの形成・交流を促すこと

- ・ どの子も「要約」することができる
- ・ 学習形態（全体・個人・ペア・グループ）

#### ○ 表現の場が保障されること

- ・ ブックづくり
- ・ プレゼン

まず、単元導入がとても丁寧です。3年社会科『昔の道具』の思い出し、大阪くらしの今昔館のウェブサイト視聴、プレゼンのデモンストレーションをたくさんの先生方がして見せる。これで、学びへの興味・関心が自ずと高まります。

単元の終末に表現活動も位置づけておられます。しかも「ブックづくり」と「プレゼン」と二度にわたっての表現をめざすことで、確実に子どもは学びを自分事にします。

いずれも、情報センターとしての学校図書館の活用また学校司書との協働が不可欠であることに気づきます。

## 各項目にあてはまると考えられる学習活動②

### ② 学習方略を身につけること

#### ○ 話題に関わる基礎的知識をもつこと

- ・ 意味調べ
- ・ 百科事典の使い方指導

授業者と学校司書との協働

#### ○ 文章読解の知識・技能をもつこと

- ・ 説明文の読み取り手順の思い出し
- ・ 要約の仕方

テーマの提示⇒サイドライン⇒限られた文字数でまとめる

#### ○ 比較し俯瞰する思考ができること

- ・ クリティカルシンキング  
さらに奥深く文化を知るきっかけづくり

学習方略の面では、なじみのない語句の調べ学習。また、技能面として、調べ学習に向けて百科事典の使い方の指導まで行います。学校司書の発想や協力あってこそ、丁寧に進めることができます。

この単元で、最終的にめざすこととして中林先生は、「さらに奥深く文化を知るきっかけに」と指導案に書かれています。教材文を読む、資料を探す、さらに資料を読み込む、表現活動につなぐといった学習活動に取り組んでいる内に、子どもたちは和の文化、洋の文化に対して個別に俯瞰的な振返りをどんどん進めていきます。つまり、思考力の高まりに結び付くということです。



読解指導でめざすこと

〔 比較し俯瞰する思考ができること 〕

### 説明文

○ 筆者の気持ちや思い・願いを考えて話し合おう

【定義】「内容、形式や表現、信頼性や客観性、引用や数値の正確性、論理的な確かさなどを『理解・評価』したり、自分の知識や経験と関連付けて建設的に批判したりする読み」

資料の準備：本＋ICT活用

学習のめあて：「和のみ力について調べよう」

「み力」って何？：「すごい」「押しポイント」

「生きる教育」へ

クリティカルシンキング

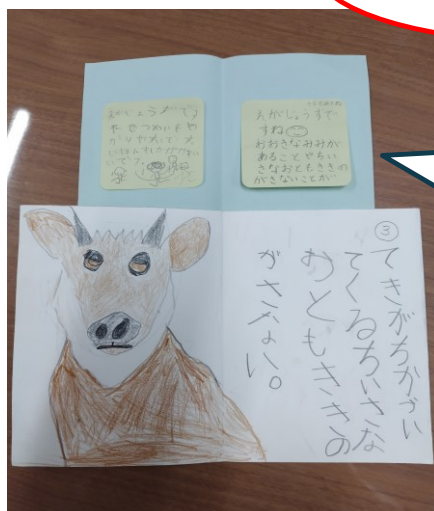
わたしは、国語科読解指導で最も大切にしたいねらいは、「比較し俯瞰する思考ができる」ようにすること、だと考えています。いいかえれば「クリティカルシンキング」ができるようにするということです。これが「生きる教育」、あるいは子どもの今後の豊かな生活との結び目になります。この観点から今日の授業を振り返りますと、中林先生や辻先生のねらいがよく分かります。資料の準備について、本だけでなくICT活用にまで広げておられる。比較の範囲をできる限り広げる意図です。

また、「和のみ力について調べよう」という学習のめあて、これを、「すごい」とか「押しポイント」とかいった、子どもになじみ深いことばで砕いて、感覚的に伝える配慮は、確実に学習のめあてを意識することにつながり、さらに、クリティカルシンキングが決して非生産的なものではなく、創造的な活動であることの理解にもなります。さらには、友達同士の楽しい伝え合いへの期待感も高まります。

さきほどの本校の研究テーマに、みごとに結び付いていく学習活動だと感じます。授業者と学校司書との協働の成果です。

## 協働の成果=こんな事例も

【1年生『どうやってみを まもるのかな』でブックづくり】



『コミュニケーションセンター』  
としての学校図書館

学校図書館に  
展示すると、  
お便りが届く。

先生方が「協働」なさる場面が、今日の授業に限らず、よく見られることも、本校の研究の特色です。たくさん事例はございますが、一例だけ、紹介してみます。

1年生が、『どうやって みを まもるのかな』の発展学習で、他の動物の身の守り方を調べて、ブックづくりにチャレンジしました。画面の下に写っているのが、できあがった本です。

まず驚くのが、どの子も、それぞれの動物の特徴を活かした身の守り方を、教科書の文章を応用して、うまく説明しています。言語技能の指導がぬかりなく行われています。

ただ、そこで終わらないのがこの学校の値打ちです。さらに図書館に展示するんですね。そうすると、5年生からお便りが来ます。背景にはたくさんの先生方の「協働」があります。

1年生の子たちにとって、文字ことばになじみ始めている段階で、このような体験ができることは素晴らしいことです。時間空間を超えて、たとえ知らない間柄であってもコミュニケーションが成立するという体験。文字がもつ不思議な力を、嬉しく感じる瞬間を、先生方皆さんで、演出なさっている。

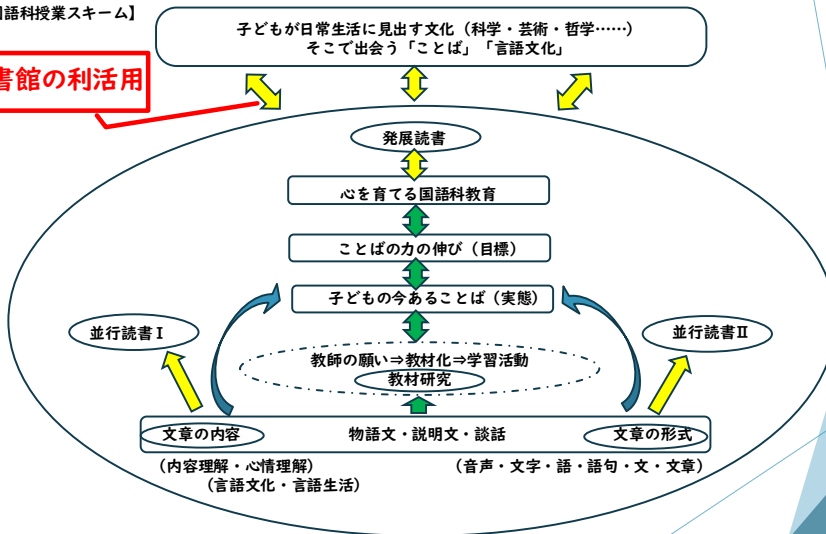
学校図書館の機能に、「コミュニケーションセンター」という機能も加えてよいのではないかと、考えさせられました。

## Point 4

## 学校図書館で学びに奥行きを

参考：【国語科授業スキーム】

学校図書館の利活用



これらの授業づくり、いわば、ねらいに即した「奥行き」のある授業づくりは、学校図書館でなければできません。だから、ポイント4は、「学校図書館で学びに奥行きを」、すなわちこれが、「かけがえのない学校図書館」ということの原因になります。これをもっと多くの方にアピールしたいものです。残念ながら、この認識が、世間一般に低いです。

画面は、わたしが考える国語科授業づくりの概念図です。詳しく説明しませんが、大きな円内を教科書教材による学び、外側を子どもや先生方の日常生活に広がる、ことばの世界と見てください。中林先生や辻先生はじめ、この学校の先生方は、授業を進めるにあたって、子どもの学びをこの円の内側に閉じ込めるのではなくて、外側とつながるようにされている。教材文の外にいる子どもたちを、まず教材文の世界に引きつける。また、学びの成果を生活に還す。そうする方が、学びが活きるからです。

ただしこれの実現には、授業に関わる方々の打合せが大事で、辻先生は、学校司書の立場から「昨年度はこんな資料を使われましたが、今年度はどうされますか？」とリードされることもあるそうです。もちろん各先生方も、南市岡小学校では、子どもの学びへの意欲に応じて、これでもかと学校図書館を利活用する意識を保たれています。そうすることで、生きたことば学びを保障している、となります。学校図書館や学校司書がもつ高いポテンシャルを最大限活かすということです。子どもたちの学びの外に広がることばの世界。その望ましいエッセンスを整然と取り揃えているのが、学校図書館だからです。

## Point 5

### 手間ひまかけて確実に

〔学校図書館活用の活用の定型〕

1サイクル  
2～4か月

- 1 計画 : 年間指導計画の共有
- 2 打合せ : 授業のねらいを明確化
- 3 準備 : ICT環境 公共図書館も
- 4 実践 : 子どもへの対応に集中
- 5 評価 : より効果的な取り組みに

最後、五つ目のポイントです。

すでにお分かりのとおり「協働」には、手間ひまかかるんですね。ただし、確実にとりくめば大きな成果が期待できます、ということです。

こちらは、昨年度示された本校での学校図書館活用の定型です。

現状、打合せの時間が非常にとりにくいという点は、こころえておく必要がございます。だからこそ余計に、このサイクルに慣れてどんどん使うということです。

もう一つ、当然のことですが、公共図書館に資料提供をお願いする時にも、できればひと月半、日程の余裕を見ておくことです。辻先生が心がけておられることは、団体貸し出し依頼の際に、依頼票を送るだけでなく、授業者の意図や子どもの読書力について打ち合わせできるよう、担当の司書の方に電話連絡なさるそうです。また、事後、子どもが作成した成果物を、可能であれば担当していただいた司書の方に見ていただくようにもなさっています。こうなれば、「連携」を超えて、全く一緒になって子どもの成長を喜ぶ、さらに幅広い「協働」になります。

年間計画をもとに、互いに連絡とりあって、見通しを立てて「手間ひまかけて確実に」うまくこのサイクルにのせたいものです。

# かけがえのない学校図書館に

「美術館が美しさの水準を示す役割を担っているように、図書館はわたしたちの社会がもっている知とたのしみの水準を表す場所ではないといけないのです。」

『子どもと本』松岡享子著〔岩波新書（新赤版）1533〕  
：2015年岩波書店刊・ISBN9784004315339（P168L5～L6）



以上、五つのポイントを考えました。

先ほど紹介しました『どうやってみをまもるのかな』の実践は、日常の取り組みで、研究授業ではありません。「かけがえのない学校図書館」「に」という「志」や「やりがい」の「共有」をたいせつになさって来られたからこそ、そこまで進むのかと感慨深いです。

松岡享子さんという方が、図書館がどんな場所かということを端的に述べておいてです。

「図書館はわたしたちの社会がもっている知とたのしみの水準を表す場所ではないといけないのです。」

もちろん本校の、先生方も相通じる「志」をおもちです。なおなお、ICT部門での課題は残されているとされていますけれども、さらに大阪市立図書館との連携・協働を心がければ、非常に質の高い授業をさらに着実に展開することができます。

ご研究をさらに積み上げていただきますように願っております。

以上、わたしの受け止めを述べまして、講評いたします。有難うございました。